

春の俳句 優秀作品

二年生

みつばちが 花すいみつすい ごきげんだ

こうえんで つくしみつけた こんにちは

そとあそび はじめてさわれた だんごむし

三年生

さくらもち くちにほおばる おいしいな

こうていに ウグイスのこえ ひびいてく

みつばちは はちみつ作りで いそがしい

春風が みんなの心を 揺り動かす

四年生

春の空 青い空には 春霞

一年生 きいろいカバーが なつかしい

まどを開け 気持ちやわらぐ ミモザかな

五年生

咲きほこる 空見あげれば 桜雲

花くらべ いろんな花が 見つかった

初ざくら 折しも今日は よきひなり

六年生

一年生 この学校の つぼみです

春風に 吹かれたつくし フラダンス

手をつなぎ 花ひらく町 歩んでく

まど開けて すうっと横ぎる 春の風

最優秀賞

低 そとあそび はじめてさわれた だんごむし

中 こうていに ウグイスのこえ ひびいてく

高 まど開^あけて すう^よっと横ぎる 春^{はる}の風^{かぜ}

さいゆうしゅうさくひん せんびよう
最優秀作品 選評

ていがくねん
低学年

「だんごむし」は春の季語です。春を迎えたうれしさと、

ダンゴムシを初めて触れたうれしさ。二つのうれしさが素直

な言葉で伝わってきます。

ちゅうがくねん
中学年

見慣れた校庭でも、ウグイスの声が聞こえると少しちがつ

て見えてきます。また「ひびいてく」でウグイスの声と一緒に

に校庭の広がりが増かびます。耳と目を使った一句です。

こうがくねん
高学年

窓を開けたとき入ってきた風に春の訪れを感じた、その

一瞬を切り取りました。「すうっと」にかすかな風の流れ

が、「横ぎる」に作者が感じた風が描かれています。